

臨時社会教育委員会議事録（議事要旨）

- 1 **開催日時** 平成18年4月20日（木）午後2時3分～4時5分
- 2 **開催場所** 浦安市文化会館 3階 中会議室
- 3 **出席者**
(委員)
舟田委員長、梅澤副委員長、小比類巻委員、山本委員、指田委員、中村委員、津矢田委員、田中委員、下田委員
(事務局)
教育委員会理事、生涯学習部長、同次長、生涯学習課長、同主幹、市民スポーツ課長、青少年課長、中央公民館長、堀江公民館長、富岡公民館長、美浜公民館長、当代島公民館長、日の出公民館長、中央図書館長、視聴覚ライブラリー館長、郷土博物館長、青少年センター（兼）青少年館副主幹、生涯学習推進係
- 4 **議題**
 - (1) **前回会議内容の確認**
 - (2) **協議事項**
 - 1) 平成18年度 社会教育関係団体活動補助金の交付予定について
 - (3) **報告事項**
 - 1) 平成18年度 事業計画について
 - (4) **その他**
 - 1) 浦安市青少年海外派遣選考委員の推薦について（報告）
 - 2) 次回会議日程について
- 5 **議事の概要**
 - (1) **前回会議内容の確認**

平成17年度第6回社会教育委員会議の議事録について、事務局より報告を行った。
 - (2) **協議事項**
 - 1) 平成18年度社会教育関係団体活動補助金の交付予定について
補助金交付予定のある担当課長より内容を説明し、委員より意見を求め、承認された。
 - (3) **報告事項**
 - 1) 平成18年度事業計画について
各担当課（館）長より内容を説明した。
 - (4) **その他**
 - 1) 浦安市青少年海外派遣選考委員の推薦について
委員長より推薦者の報告を行った。
 - 2) 次回会議日程について
次回の会議は、平成18年5月18日の開催予定。
- 6 **会議経過**
 - (1) **前回会議内容の確認**

前回開催の第6回社会教育委員会議の議事録について、事務局より報告を行

った。

(2) 協議事項

平成18年度社会教育関係団体活動補助金の交付について、該当のある担当課長より内容を説明した。

その際に表明された質問及び意見は次のとおりである。

(質問) 昨年、補助金の見直しに関する提言書が提出された。補助金の継続年数や定額・定率補助について指摘されているが、これらを踏まえ予算に反映しているのか。

(回答) 提言に基づき、今年度から検討に入る。なお、市財政課からも平成20年度までに整備するように指導されている。補助年数も団体によって異なり、提言や監査からの指摘どおりに行うと、団体との摩擦が生じかねない。社会教育団体の中には市に協力いただいている団体も多いことから、団体との話し合いを通して整備に努めていきたい。

18年度については、明確に変更した点はない。17年度については現在実績報告書が提出されている段階であり、多額の繰越金が発生する団体については整理していく方向である。

(回答) 今年度から提言に基づき、整備できるところは整備していく考えである。一足飛びにはいかないが、20年度までには整備していく。

(回答) 補助金の見直しの中で、子ども会育成連絡協議会の繰越金が多額に発生しているとの指摘を受けた。補助金交付の時期が遅延し活動期間が短いことが一因であった。平成15年度は0.2%、16年度は4.4%、17年度は0.1%と繰越金は精査されている。また、団体の事業内容についても精査されている。

健全育成連絡会については、中学校区ごとに健全育成連絡協議会が設置されているが、平成6年度に県の指導のもと市全体を統括した健全育成連絡会を結成した。このような経緯もあり、中学校区ごとの自己財源もないことから、健全育成連絡会から各中学校に活動費を支出しているため、団体の性質が他の補助交付団体とは異なる。

長期・定額による交付等の指摘を受けると厳しい面もあるが、提言に基づいて整備していく。

(回答) 読書会連絡協議会への補助額は一昨年度12万円であった。主な支出内容は機関紙の発行であり、印刷業者の競争原理を取り入れた結果、減額することができたことから、昨年度より10万円に減額している。

(回答) 近日中に補助交付団体と話し合う機会を設け、補助金交付要綱などの基本事項を説明していきたい。

(質問) 子ども会育成連絡協議会は事業費・運営費どちらを多く占めているのか。

(回答) 運営費がかなりのウェートを占めている。

(質問) 社会教育の振興に役立てていただくために補助金を交付するのであれば、新規に社会教育に貢献する団体に補助金を交付することがこれからは必要と思うがいかがか。

(回答) 平成3年の社会教育委員会議答申の中に、補助金の問題について述べられている。連合体に対しては市全体を活動エリアとしているため、補助金として認める一方、単位サークルでも社会教育事業を行っている団体には、運営費補助金ではなく事業費補助金で活動を補助していくのがひとつの方法であると示されている。各市の状況を見ると、予算的な上限はあるものの、事業を公募した中で提案事業に対する補助

を行う事例もある。最新の答申の中でも、補助金の考え方について述べられているので、改めて教育委員会内部で具体的に考えていく必要がある。

(質問) 新規に社会教育に貢献していると思われる連合体や団体は、補助金交付の対象となるのか。

(回答) 検討委員会からの提言及び監査委員からの厳しい指摘等で、補助金交付については非常に神経過敏となっている。しかし新規団体に補助金を交付できないことはない。必要不可欠な補助金であれば予算がついている事例もある。

(意見) 補助金を受けて社会教育活動を行っている団体と、ボランティア的に活動し補助金が交付されていない団体とでは不公平感が生じる。検討をお願いしたい。

(回答) 今の指摘も平成3年の答申に述べられている。団体活動の公平感をどうとすべきかが課題であり、補助金のみであると不公平感が生じてくる。施設を整備することにより、活動を補助していくことによって社会教育活動の公平感を担保していこうという答申を受けている。

(質問) 長い歴史の中で一気に改革できないことは承知している。新規団体でも、市や市民のためになる活動であれば予算をつけても良い。

ただ予算を減らせば良いという評価ではなく、活動内容が充実していれば、補助金額を増額してもよいと考える。

博物館所管の保存団体は一律な補助額であるが、団体の規模や活動内容、活動日数も異なると思うので、今後予算を積算していく上でどのように考慮していくのか。

(回答) 補助額は一律であるが、団体によって規模も加入人数も活動内容も全く異なる。補助金額面を含めて団体と話し合いを持ち、検討していきたい。

(意見) 保存会は、その技術等を後世に残すために育成活動を行っているものである。後継者を育てるためにも、また若い世代に加入していただくためにも、補助金額を減額する方向ではなく、それ相当の補助金がつくようお願いしたい。

(回答) お洒落、囃子、細川流投網保存会には若い世代が入会してきている。しかし、舟大工技術保存会は、誰もが技術を継承できるとは限らないので、後継者探しや育成が難しい。

(3) 報告事項

平成18年度事業計画について各担当課(館)長より内容を説明した。

その際に表明された質問及び意見は次のとおりである。

(質問) 高洲地区公民館複合施設はどのような施設が入る予定か。

(回答) 現段階では白紙であり、今後意見を聴取し検討していく。

(質問) 生涯学習支援システムは、インターネットや携帯電話が普及し、市民が主体的に情報を提供している。市ホームページも構築されているが、更に市として何を構築しようとするのか。

(回答) 一例に富山県で行っているインターネット市民塾では、講師と受講生が共に市民同士で、eラーニングシステムを構築している。

情報を提供するのみではなく、施設に赴いて学習できない方に自宅でインターネットを使って学習できるシステムを構築するものである。eラーニングシステムを大学や企業と提携しているところもある。受講して培った知識を生かし、講師としての立場で教える側に就くことも考え

られる。

さらに、2007年問題に見られるように、多くの方が企業を退職する。パソコンを使いこなせる方が多いので、将来的にはパソコンを通して地域にできるきっかけや仲間作りのきっかけができるものと考えられる。

(質問) 図書館や視聴覚ライブラリーの名作映画鑑賞では、昔懐かしい作品に出会えるので、よく参加している。

郷土博物館ボランティアのもやいの会の方から、来館してくる子どもがしつけがなされていないとの話を聞いた。館ではそのような子どもにどのような対応をされているのかお聞きしたい。

(回答) 危険な行為に対しては、厳しく注意してほしいとお願いしている。

(意見) 逆な意見で、もやいの会に参加しているが、好奇心旺盛な子どもたちが多く、子どもたち相手に困ったことはなかった。

(4) その他

1) 浦安市青少年海外派遣選考委員の推薦について

昨年同様、青少年海外派遣選考委員に梅澤委員を推薦したことを、委員長より報告した。

1) 次回会議日程について

次回の会議は、平成18年5月18日の午後2時から文化会館で開催する予定である。

以 上